

令和2年5月20日

検証評価委員会提出

令和元年度 南部地域療育センター業務改善に関する取組み報告

1 令和元年度の取組みについて

平成30年度は療育センター改善評価委員会により、組織管理体制の再構築（諸会議における運営点検と必要な情報の共有化、体制に関する届出書作成・点検、施設内関係職員連絡調整、職員の育成や相談できる体制整備等）について、「今後の具体的な取組み」として整理し、取組みを開始しました。

令和元年度は、「平成31年度（令和元年度）運営改善委員会」として、前年からの改善取組の進捗状況を確認しつつ内容を再点検し、コンプライアンス遵守に向けた事業運営と施設管理の改善運営に取り組みました。

組織改編について、平成31年度より外来診療係を設置して係長を配置し、地域支援係、通園係の各係長による係業務管理とそれを集約し事業を統括する副所長、管理者としての所長の位置づけを明確化し、組織ガバナンス形成の基本を据えました。

月末開催の運営調整会議には事務局事業推進担当参事も参加し、組織運営と改善点への取組みに係る進捗状況について点検を行いました。

更に以下の項目については、専門のアドバイザーに参加を依頼し、参考意見をもらいながら改善に向けた取組みを進めました。

① 業務改善委員会（5回）

産業振興財団からの派遣による業務改善支援コーディネーターに参加いただき、日常業務の改善に向けた具体的な取組みについて、各係における業務分析、改善取組計画策定、取組み経過の報告と確認を進めた。個人の裁量で分散化していた業務内容について、定量化による見える化を進めた結果、各係の標準的な業務整理と作業の流れが確保され、診療待機時間の圧縮や合理的な時間管理に取組めつつある。

② 外来診療にかかる業務改善について（7回）

医療事務アドバイザーを導入し、外来診療の待機期間の縮小、適切な診療報酬に係る請求業務の改善について、必要なアドバイスを受けた。

業務改善ワークショップを企画・開催し、現場で抱えている問題を抽出し、現状の環境でどのように整理できるのか、課題の整理方法を確認し、多職種間で具体的な取り組みについて目的の共有化を図る機会とした。

2 令和2年度の取組みについて

令和元年度は、上記の取り組みを進める一方で、コンプライアンスの点検を優先させ、通園利用者の慎重な受入れを進めた結果、利用者の減少とそれによる大幅な収支の落ち込みが課題となり、2年度は経営的な立て直しが急務となっています。

前年度の取組みを継続したうえで、前年度減少した通園事業の利用者の改善と、外来診療過程における待機時間の改善、診療請求システムの検討等を確実に進めます。更にガバナンスの構築に取組み職員の意識改革を進めます。

月例で、各係の進捗状況を確認し、検証しつつ、課題解決に向けた取り組みを確認していくことを目的として「運営改善委員会」を継続開催します。